

所属名	事務事業名	ページ番号
資産税課	固定資産税（土地）賦課事務	2
資産税課	固定資産税（家屋）賦課事務	3
資産税課	固定資産税（償却資産）賦課事務	4
資産税課	固定資産税（標準宅地鑑定評価等）事務	5
資産税課	航空写真撮影業務経費	6

令和3年度 事務事業実績報告シート

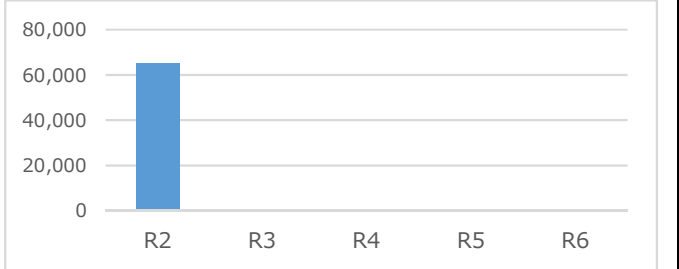
事務事業名	固定資産税（土地）賦課事務	事業期間	昭和 25 ～	年度
担当部署・係名	資産税課 土地一係、二係	担当課長名	稲富 弘人	
総合計画における位置づけ	政策	効果的・効率的で信頼される行政経営が行われているまち		
	施策	34財政の健全性の確保		
	基本事業	適切な市税の賦課・収納		

1 事務事業の基本情報

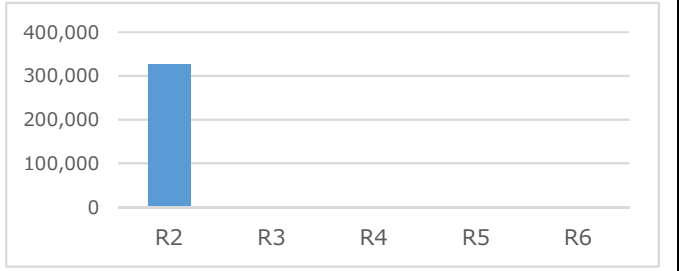
事業概要・目的	賦課期日（毎年1月1日）における固定資産（土地）の利用状況に対し、国が定めた固定資産評価基準に基づいて評価を行い、固定資産評価額を決定する。固定資産評価額をもとに算出した課税標準額に税率1.4%を乗じて固定資産税を算出し、所有者（納税義務者）に対して、納税通知書を作成して送達する。課税客体を把握し、地方税法・市税条例等関係法令に基づき、固定資産税（土地）の公平・公正な賦課を行うことを目的とする。				
事業の対象者	佐賀市内に固定資産（土地）を所有する個人又は法人				
根拠法令等	地方税法、佐賀市市税条例、固定資産評価基準				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	21,708				
うち佐賀市の負担額	21,708				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
納税義務者数（法定免税点以上）					人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
64,948					



活動実績②					単位
土地評価総筆数					筆
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
325,523					



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

3年に1度の基準年度ごとに総務大臣が定めた固定資産評価基準に基づき評価を見直し、公平かつ適正な固定資産の評価及び課税に努める。地価の上昇や活発な土地取引が今後も継続するようであれば、それに伴い納税義務者数や課税額も上昇していくものと考えられる。

## 令和3年度 事務事業実績報告シート

<b>事務事業名</b>	固定資産税（家屋）賦課事務	<b>事業期間</b>	昭和 25 ～ 年度
<b>担当部署・係名</b>	資産税課 家屋一係、二係	<b>担当課長名</b>	稲富 弘人
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	効果的・効率的で信頼される行政経営が行われているまち	
	<b>施策</b>	34財政の健全性の確保	
	<b>基本事業</b>	適切な市税の賦課・収納	

### 1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	賦課期日（毎年1月1日）における固定資産（家屋）の現況に対し、国が定めた固定資産評価基準に基づいて評価を行い、固定資産評価額を決定する。固定資産評価額をもとに算出した課税標準額に税率1.4%を乗じて固定資産税を算出し、所有者（納税義務者）に対して、納税通知書を作成して送達する。 課税客体を把握し、地方税法・市税条例等関係法令に基づき、固定資産税（家屋）の公平・公正な賦課を行うことを目的とする。				
<b>事業の対象者</b>	佐賀市内に固定資産（家屋）を所有する個人又は法人				
<b>根拠法令等</b>	地方税法、佐賀市市税条例、固定資産評価基準				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業費総額</b>	15,885				
うち佐賀市の負担額	15,885				

### 2 事業の活動実績

活動実績①					単位
家屋の新築・増築・解家の棟数					棟
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
2,439					

活動実績②					単位
家屋評価総棟数					棟
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
127,468					

### 3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

市街化調整区域における既存集落の維持・活性化や市外への人口流出抑制等を目的とした「50戸連たん制度」による戸建て住宅等の建築や、佐賀駅周辺や大型商業施設近郊の分譲・賃貸マンション建設は今後しばらくは継続すると想定される。一方、家屋解体棟数も家屋の新築または増築棟数とほぼ同数を推移しているため、棟数は微増で推移していくものと考えられる。

# 令和3年度 事務事業実績報告シート

<b>事務事業名</b>	固定資産税（償却資産）賦課事務	<b>事業期間</b>	昭和 25 ～ 年度
<b>担当部署・係名</b>	資産税課 管理・償却資産係	<b>担当課長名</b>	稲富 弘人
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	効果的・効率的で信頼される行政経営が行われているまち	
	<b>施策</b>	34財政の健全性の確保	
	<b>基本事業</b>	適切な市税の賦課・収納	

## 1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	<p>賦課期日（毎年1月1日）における固定資産(事業の用に供する償却資産)の所有者から、その償却資産の内容（取得年月、取得価額、耐用年数等）について記載した償却資産申告書を受理。国が定めた固定資産評価基準に基づき、取得価額を基礎として取得後の経過年数に応じた減価率により固定資産評価額を決定する。</p> <p>固定資産評価額をもとに算出した課税標準額に税率1.4%を乗じて固定資産税を算出し、所有者（納税義務者）に対して、納税通知書を作成して送達する。</p> <p>課税客体を把握し、地方税法・市税条例等関係法令に基づき適正評価を実施することにより、固定資産税（償却資産）の公平・公正な賦課を行うことを目的とするを図る。</p>				
<b>事業の対象者</b>	佐賀市内に固定資産（償却資産）を所有する個人又は法人				
<b>根拠法令等</b>	地方税法、佐賀市市税条例、固定資産評価基準				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業費総額</b>	3,676				
うち佐賀市の負担額	3,676				

## 2 事業の活動実績

<b>活動実績①</b>					<b>単位</b>	
納税義務者数（法定免税点以上）					人	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
4,617						
<b>活動実績②</b>					<b>単位</b>	
申告書発送件数					件	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
12,584						

## 3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

公平・公正かつ適正な課税を推進するため、申告制度の周知を図り、未申告者には催促書を送付し申告書の提出を促す。未申告の場合は、過去の申告内容をもとに、申告がなくても償却資産を所有しているとみなして課税する「みなし課税」を継続して実施する。また、地方税法第354条の2に基づき、税務署等など関係機関で所得税又は法人税に関する書類について閲覧調査し新規義務者の捕捉を行う。さらに実地調査に基づき申告漏れや申告誤り等の確認を行い、調査結果に基づく賦課決定に際しては、その年度だけでなく、資産を取得した翌年度まで（地方税法第17条の5第5項に基づき5年度分）遡及し、課税を行っているため、償却資産の納税義務者数及び課税額は微増で推移していくものと考えられる。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	固定資産税（標準宅地鑑定評価等）事務	事業期間	平成 4 ～ 年度
担当部署・係名	資産税課 土地一係、二係	担当課長名	稲富 弘人
総合計画における位置づけ	政策	効果的・効率的で信頼される行政経営が行われているまち	
	施策	34財政の健全性の確保	
	基本事業	適切な市税の賦課・収納	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	固定資産評価の均衡化・適正化を図るため、地方税法の評価基準に基づき、3年に1度の基準年度ごとの評価替えに向け、価格の見直しを行う。 【事業内容】 ・評価替え委託業務：現状分析調査、用途地区及び状況類似地域見直し、標準宅地見直し、路線価（路線形状）見直し及び新設、路線価敷設 ・標準宅地鑑定委託業務：標準宅地の鑑定業務を不動産鑑定士等に委託する。				
事業の対象者	市内の評価（課税）対象の土地				
根拠法令等	地方税法				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	78,912				
うち佐賀市の負担額	78,912				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
鑑定評価箇所数					点
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
815					

活動実績②					単位
用途地区・状況類似地域調査対象面積					ha
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
43,142					

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

評価対象となる筆数は、宅地分譲などにより微増の傾向がみられる。鑑定評価する標準宅地の箇所数については、令和6年度の評価替え作業の中で状況類似地域などの見直しを予定しており、実態に応じて微増微減が考えられる。

令和3年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	航空写真撮影業務経費	事業期間	令和 1 ~ 令和 2 年度
担当部署・係名	資産税課 土地一係、二係	担当課長名	稲富 弘人
総合計画における位置づけ	政策	効果的・効率的で信頼される行政経営が行われているまち	
	施策	34財政の健全性の確保	
	基本事業	適切な市税の賦課・収納	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	令和3年度固定資産評価替えにおける佐賀市、小城市及び神埼市の課税客体を的確かつ効率的に把握するために、航空写真撮影を行い、その他幅広い業務に利用が可能となる付加価値の高い航空写真地図を作製する。広域の共同撮影で、スケールメリットによるコスト削減や業務の効率化を図る。				
事業の対象者	佐賀市、小城市及び神埼市に固定資産を所有する個人又は法人				
根拠法令等	航空法、測量法、地理空間情報活用促進法、著作権法、財務規則（各市）				
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	47,300				
うち佐賀市の負担額	28,830				

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
撮影エリア					km <sup>2</sup>
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
653					
活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

単独での航空写真撮影は、コスト的にも負担が大きいので、他自治体との共同での撮影を継続していくことになると考えるが、広域での共同撮影によるコストダウンの幅は、ある一定の規模を超えると頭打ちになるため、今の3市での共同撮影の枠組みの変更については、費用対効果を見極めながら検討する。